雪印種苗株式会社　千葉研究農場　牧草・飼料作物研究Ⅱグループ　佐藤　奈緒

イタリアンライグラス新品種「たちモン*」のご紹介

＊品種登録出願中（出願公表中）海外持出禁止（農林水産大臣公示有）

１．はじめに

イタリアンライグラスは都府県で広く利用される代表的な秋作物であり、極早生品種から晩生品種まで熟期の幅が広いという特性があります。その特性により、希望の収穫時期に合わせて品種を選定できるだけでなく、熟期の異なる品種を利用することで収穫時期を分散させることができ、作業の分散化やそれによる適期収穫がしやすくなります。

現在、極早生品種から晩生品種まで熟期が異なる品種が多く販売されています。極早生品種～中生品種では、当社の販売品種であるタチマサリやタチムシャ等を含め直立型の草姿を持ち耐倒伏性に優れる品種が主流となっている一方、中晩生品種～晩生品種の多くは比較的開帳型に近い草姿であり、耐倒伏性に優れた品種がほとんどありません。このような開帳型で倒伏しやすいイタリアンライグラス品種を利用した場合、収穫時に低く刈ることが難しく収穫ロスが出てしまうことや、反対に低く刈ろうとして土砂を混入してしまい、サイレージ発酵に悪影響を及ぼしてしまうなど、多くのデメリットがあります。

今回ご紹介する新品種「たちモン」は農研機構九州沖縄農業研究センター（以下九沖研）と当社共同で育成した晩生品種で、晩生品種の中では直立型の草姿で耐倒伏性に優れる品種です。現在当社で販売している晩生品種エースの後継として2025年秋から販売開始予定です。本記事では発売に先立ちまして、たちモンの特性や利用方法等についてご紹介いたします。

２．「たちモン」の特性

（１）草姿

たちモンの草姿はエースと比較して直立型で比較的株幅もあり、ボリューム感のある見た目をしています（**写真１**）。１番草の草丈は当社千葉研究農場（千葉市）・当社宮崎研究農場（北諸県郡三股町）のいずれにおいてもマンモスイタリアンB（品種ビリケン、以下マンモスイタリアンB）、エースと比較して10cm程度高いです（**表１**）。

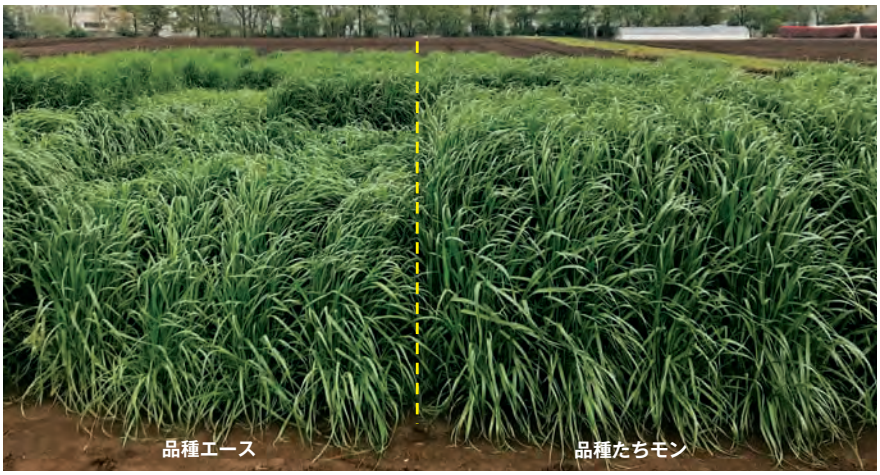

写真１　出穂期のイタリアンライグラスの様子
当社千葉研究農場（千葉市）　2022年４月20日撮影

表１　秋播きイタリアンライグラスの調査結果

千葉研究農場（千葉市）調査結果（2019年～2024年）

品種名	発芽良否	初期生育	早春の中間生育	出穂始	出穂期	１番草草丈	１番草倒伏程度	２番草草丈	２番草倒伏程度
	１-９：良	１-９：良	１-９：良	日付	日付	cm	１-９：甚	cm	１-９：甚
マンモスイタリアンB※	7.2	6.7	6.6	4/27	5/3	135	5.4	104	2.0
エース	6.2	5.5	5.1	4/28	5/3	136	5.3	97	1.4
たちモン	7.3	7.1	7.2	4/28	5/3	144	3.9	114	1.0

宮崎研究農場（北諸県郡三股町）調査結果（2020年～2023年）

品種名	発芽良否	初期生育	播種当年の中間生育	出穂始	出穂期	１番草草丈	１番草倒伏程度	２番草草丈
	１-９：良	１-９：良	１-９：良	日付	日付	cm	１-９：甚	cm
マンモスイタリアンB※	8.7	7.3	7.7	4/17	4/20	142	2.8	104
エース	6.9	5.6	5.7	4/19	4/20	130	3.7	91
たちモン	9.0	8.0	8.2	4/18	4/19	151	2.7	109

※商品名

（２）耐倒伏性

耐倒伏性に優れる品種は前述の通り、倒伏による収穫ロスの低減やサイレージ品質の低下防止、さらに株元が蒸れないため再生が良好になりやすいです。**表１**には当社試験における各品種の倒伏程度を記載しており、数値が小さいほど倒伏が少ないことを示します。千葉研究農場ではたちモンは１番草・２番草ともにマンモスイタリアンBやエースより倒伏が少ないです。特に１番草ではたちモンの倒伏程度の評点はマンモスイタリアンBやエースと1.4ポイント以上差があり、たちモンは耐倒伏性に優れます。また宮崎研究農場でもたちモンはエースより倒伏が少ないです。一般的に草丈が高くボリューム感に優れる品種は倒れやすくなりますが、たちモンは草丈の高さと耐倒伏性を両立した品種と言えます。

（３）収量性

図１に１番草および２番草の乾物収量を示しました。たちモンはエース対比で千葉研究農場では１番草32％多収、２番草32％多収、合計32％多収、宮崎研究農場では１番草25％多収、２番草44％多収、合計30％多収です。たちモンはエースと比較して収量性に優れます。

（４）初期生育および中間生育

たちモンは、秋播きした際の初期生育や出穂に達する前までの生育も非常に良好です。播種から約３か月後に撮影した**写真２**や、播種から約５か月後に撮影した**写真３**の通り、エースよりたちモンのほうが出穂するまでの生育が良好です。また、発芽や初期生育、中間生育などの評点調査でもたちモンはエースより良好です（**表１**）。

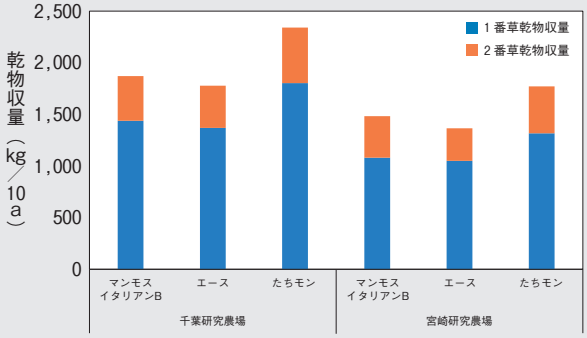

図１　イタリアンライグラスの１番草および２番草の乾物収量
当社千葉研究農場（千葉市、2019年～2024年）および宮崎研究農場（北諸県郡三股町、2020年～2023年）

（５）越冬性

たちモンはエースと同程度の越冬性を有しています。当社北海道研究農場（夕張郡長沼町）にて、たちモンおよび越冬性が優れる２品種を秋播きし、越冬後の越冬性を評価しました（**図２**）。たちモンは越冬性が優れる他品種Ａおよび他品種Ｂよりも越冬性評価が高く、萌芽した個体数が多いです。また、たちモンの現地試験（福島県および岡山県蒜山地域）ではたちモンはエースと同等の越冬性があることが確認できています。ただし北海道および東北地

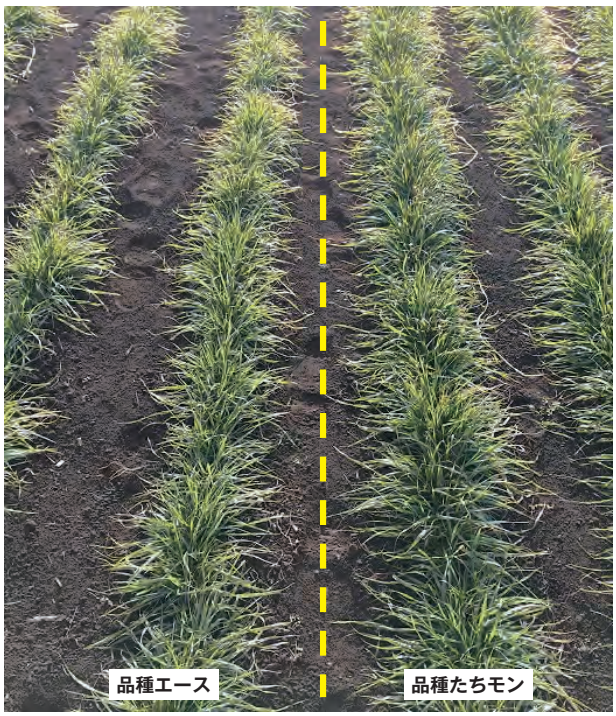

写真２　播種後３か月のイタリアンライグラスの様子
当社千葉研究農場（千葉市）　2021年１月16日撮影

方北部など積雪期間の長い地域では雪腐病による被害が大きくなる可能性があるためご注意ください。

（６）いもち病および冠さび病抵抗性

いもち病はイタリアンライグラスの主要病害のひとつで、主に九州地方等の温暖な地域で早播きすると発生しやすい病害です。高温多湿の条件下で発生しやすく、生育初期に発生してしまうと苗が立ち枯れ収量が激減してしまいます。宮崎研究農場にて９月初めの残暑がある時期に播種する早播き試験を実施しました（**図３**）。たちモンはいもち病に弱い２倍体品種である他品種Eより強く、４倍体品種である他品種Cや他品種Dと同等～やや強い結果でした。ただし、いもち病抵抗性品種である他品種Fほど罹病が少ないわけではありませんので、いもち病の罹病が多い地域ではいもち病抵抗性品種をご利用ください。

もうひとつのイタリアンライグラスの主要病害として、冠さび病が挙げられます。冠さび病もいもち

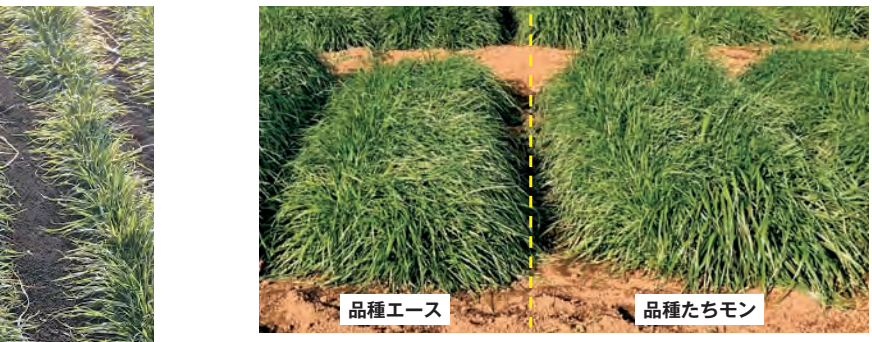

写真３　播種後５か月のイタリアンライグラスの様子
当社千葉研究農場（千葉市）　2025年３月18日撮影

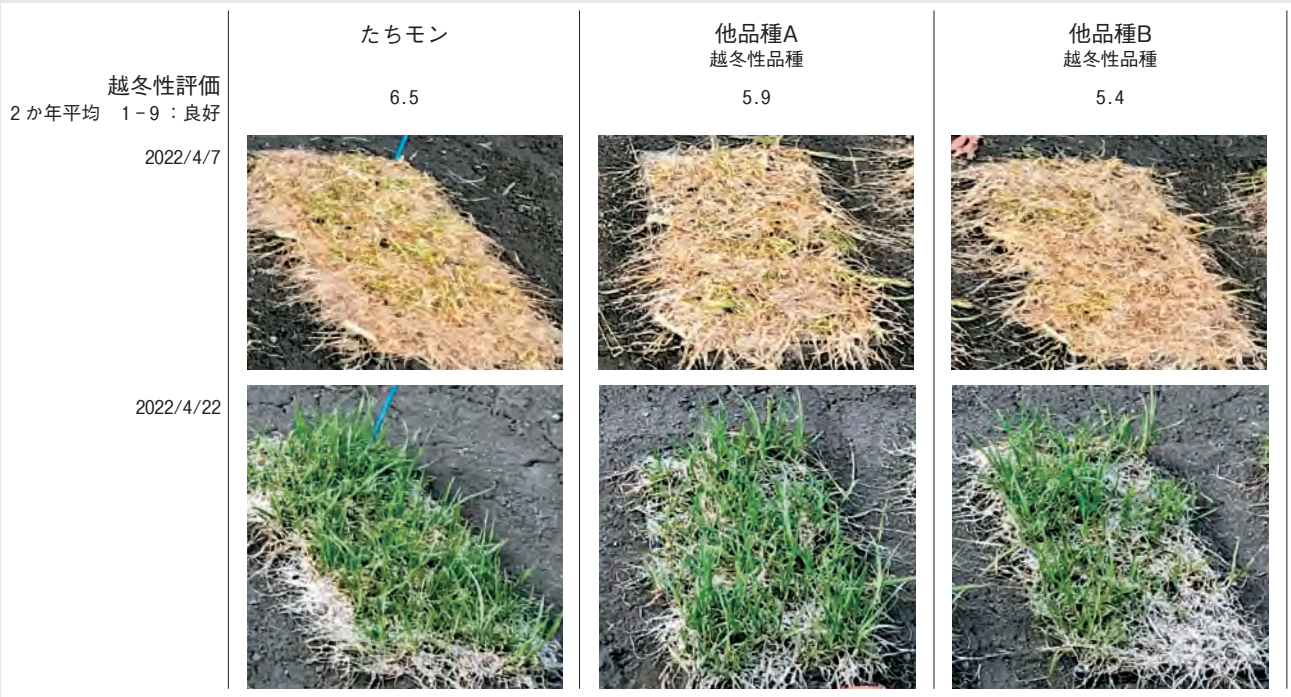

図２　イタリアンライグラスの越冬性試験結果　当社北海道研究農場（夕張郡長沼町、2021年～2024年）

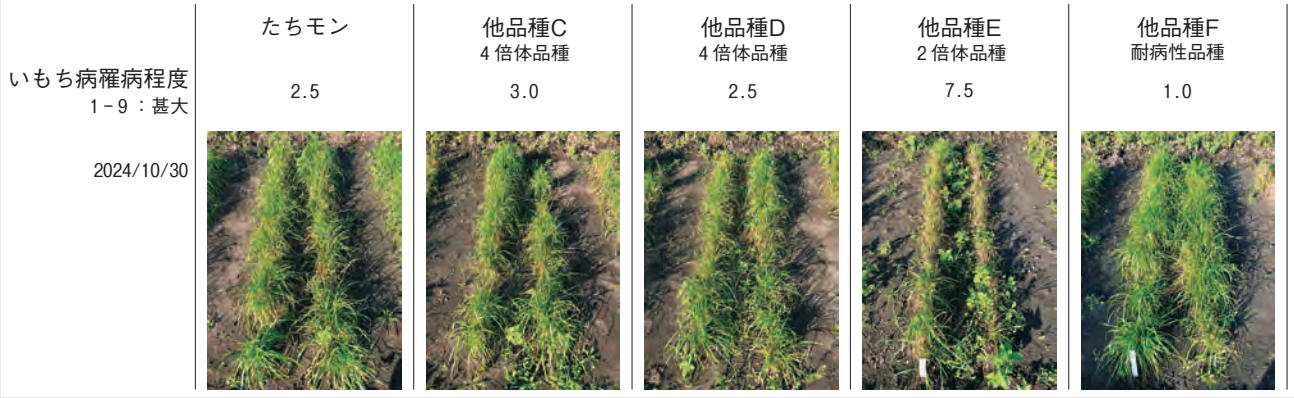

図3　早播きイタリアンライグラスのいもち病罹病結果　当社宮崎研究農場（北諸県郡三股町、2024年）

病と同様に高温多湿の条件下で発生しやすく、イタリアンライグラスを長期利用した際の梅雨時期によく見られます。多発すると、収量の減少だけでなくウシの嗜好性の低下にもつながります。冠さび病の接種試験を実施したところ、たちモンではその発生が比較的少なく、抵抗性の評価が中程度でした（**表2**）。この結果からたちモンは圃場でも冠さび病の発生が少ないと予想されます。

表2　イタリアンライグラスの冠さび病の幼苗接種試験結果

品種名	冠さび病発病程度 0－5：多	冠さび病抵抗性評価 1－9：極強
たちモン	2.7	5.0
他品種C 4倍体品種	3.8	2.3
他品種D 4倍体品種	2.1	6.0
他品種E 2倍体品種	3.9	2.7

当社千葉研究農場（千葉市、2015年）

3.「たちモン」の利用方法

（1）播種時期

播種時期は地域によって異なります。秋播きで利用する場合は、寒高冷地では9月上旬から10月中旬に、一般地では9月下旬から10月下旬に、西南暖地では9月下旬から11月上旬に播種しましょう。2倍体品種と比べていもち病の罹病程度が少ないため、上記より少し早く播種するムギ類との混播栽培にも利用できます。また2倍体品種と比べて低温時の発芽が良好であるため（**表3**）、上記より少し遅れて播種することも可能です。春播きで利用する場合は、一般地では3月中旬から4月上旬、西南暖地では3月上旬～3月下旬に播種をします。春播きした場合、ほとんど出穂しないことにご留意ください。

表3　イタリアンライグラスの低温発芽性

品種	たちモン		他品種C 4倍体品種		他品種D 4倍体品種		他品種E 2倍体品種	
播種後日数	通常条件	低温条件	通常条件	低温条件	通常条件	低温条件	通常条件	低温条件
7日	89.0	0.0	91.8	0.0	94.6	0.0	94.2	0.0
10日	97.3	73.6	93.8	62.0	97.0	11.0	95.6	20.7
14日		94.8		91.2		83.9		81.6
16日		95.5		93.6		92.5		89.5
18日		96.2		93.9		93.5		90.5
25日		96.5		94.6		94.5		92.5

通常条件：明期 25℃ 11時間　暗期 15℃ 13時間　　低温条件：明期 12℃ 10時間　暗期 5℃ 14時間　　単位：発芽率%
当社千葉研究農場（千葉市、2024年）

（２）播種量

播種量は、秋播き時3.0～4.0kg/10a、春播き時4.0～5.0kg/10aです。播種の時期が（１）の秋播きの適期から少し外れてしまう場合や圃場の状態が良好でない場合などには、上記の播種量に１kg程度を加えて播種することで、より安定した生育が期待できます。

４．晩生品種の使い分け

新品種たちモンの新発売により、当社育成の晩生イタリアンライグラス品種のラインナップはたちモンとマンモスイタリアンBの２品種になります。たちモンとマンモスイタリアンBの一番大きな違いは、春播きをした際の出穂性です。マンモスイタリアンBは春播きでも良く出穂しますが、たちモンはほとんど出穂しません。そのため春播き利用する際には、マンモスイタリアンBは採草利用、たちモンは放牧利用が適します。イタリアンライグラスが越冬できないような北海道や東北地方北部など寒くて雪が多い地域でイタリアンライグラスを春播きし採草利用したい方は、春播きによるマンモスイタリアンBの利用をおすすめします。

５．おわりに

本記事ではイタリアンライグラス新品種たちモンの特性や利用方法等をご紹介いたしました。たちモンは2025年秋から販売開始予定ですので、たちモンの優れた耐倒伏性と収量性を自給飼料の増産にご活用いただければ幸いです。ご質問やご不明点等ございましたら、お近くの営業所や研究農場へお問い合わせください。